

図書館だより SAKUらいぶ

作新学院大学

令和5年 1月号

104

作新学院大学女子短期大学部 図書館

☆内 容☆

- ・ビッグネームの対峙は
人の好奇心をかき立てる
- ・あなたのページ
- ・図書館は、授業等でも
利用されています part2
- ・開館カレンダー

ビッグネームの対峙は人の好奇心をかき立てる

A・アインシュタイン/S・フロイト「なぜ人は戦争をするのか」(浅見 省吾 訳)

人間文化学部 講師 下郷 大輔

先日、藤井王将と羽生9段の王将戦第1局がYoutubeで配信されており、普段将棋を見ていないのに見入ってしまった。お正月には、中邑真輔とグレートムタの試合があり、プロレスなど見ていなかったのに動画をはしごしてしまった。「ビッグネームの対峙を見たい」というミーハーな動機でも、興味の薄い世界に踏み込んでみるのは面白い体験だった。今回紹介する本もそういったミーハーな興味から手にしたものである。

私は「戦争」というものを身近に感じることはないし、そういったニュースが多い昨今でも率先して情報を集めることもない。ただ、それについてアインシュタインとフロイトが意見を交換し合ったとなると興味もわく。

本の内容はというと、戦争・平和・人間について二人の天才が意見を述べ合うというもの。はっきりした答えは出ておらず、やり取りの記載も60ページ足らずだが、相互の価値観が随所に見られ、読みごたえがある。

一見、題材も内容も少し重く感じられるが、二人に興味があるという方は一読してもらって損のない1冊となっている。ミーハーに手に取って触れて頂きたい。そこには思いもよらない面白い発見があるかもしれない。

「読書が与えてくれるもの」

経営学部 経営学科 4年 竹前 知咲

皆さんは日ごろから本を読んでいるでしょうか。読書の習慣がある人に比べ、読書の習慣がない人の方が多いのではないかと思います。私も以前までは、読書の習慣がありませんでした。本を読まない理由は様々あると考えられます。その中でも、私自身が本を読んでいた理由について、また、本を読むようになったきっかけなどをお話させて頂きたいと思います。

私が本を読んでいた理由には、本を読むことに苦手意識があったことや本を読むと時間をとられてしまうこと、読みたい本がなかったことが挙げられます。つまり、読書を行う時間をわざわざつくる程の重要性や必要性を感じていなかったということです。そんな私が本を読もうと思ったきっかけは、周囲の友達の影響です。本を読んで仕事に役立てようとしている友達、自分が知らなかった物事や、考えもしなかった思想を得て話してくれる友達もいます。私はこんな素敵な友達のおかげで、本を読むことの大切さを知ることが出来ました。本を読むことは様々な人物の感情を疑似体験でき、想像力を高めることに繋がります。また、「こんな風に考えるのは自分だけなのでは…」という不安が解消されたり、「こういう考えもあるのだ」と他人の考えを理解したりすることで、気持ちの選択肢が増えます。現実でも相手の気持ちを慮ることで、良好な人間関係を築くことが出来るのではないかと思います。その他にも、本から学べることは沢山あります。

しかし、インターネットが普及している現代では、誰もが簡単に欲しい情報やデータを得ることができ、社会に便利さをもたらしていますが、このことが読書離れにも繋がっているのではないかと思います。インターネットというその手軽さこそが、人々が自分で物事を考える機会を減少させているということもあると思います。考えたり、感じたり、想像したり、私たちは毎日、あらゆる言語活動をしながら生活していますが、読書にはそれら全ての能力を上げる効果があると考えます。

本は、大人も子供も関係なく、季節や時間帯の制限もなく、いつでも楽しみをもたらしてくれます。そして、時には仕事や生活に役立つ情報をもたらしてくれるものでもあります。

家の中で過ごす時間が増えている今、本を読むことの大切さを見直すにはとても良い機会です。これまで読書が苦手だったという方も、読書によって得られるさまざまな効果を知れば、本への興味関心をもってもらえるはずだと思います。是非、時間を見つけて本に関わって見て欲しいです。日常生活がより豊かになると思います。

図書館は授業等でも利用されています part 2

前号に続き本学図書館の「教室・研究推進の場としての活用」事例についてお伝えします。

「読み聞かせマスター」が、短大生に向け絵本の読み聞かせの要点を伝えました。



令和4年12月20日の幼児教育科授業「子育て支援」において、本館蔵書の絵本を教材とした学修が行われ、その中で図書館の「読み聞かせマスター」が「保護者の皆さんに伝えたい『絵本読み聞かせ』の要点」をテーマに講話を行いました。講話では「よい絵本ってどんな絵本?」「テクニックは必要?」「ウケなくても凹まない」「読み聞かせは一生の宝物」の4視点について、学生さんたちに対して「よりよい読み聞かせポイント」が示されました。この講話を基に、学生さんたちは図書館内で自ら絵本を選択しながら上記のテーマについてのレポート作成をとても熱心に行っていました。

以下は、授業を受けた学生さんたちのレポートからの抜粋です。

【「おばけのバーバパパ」アネット・チゾン タラス・テイラー作・画（偕成社 1972.6）を読んで】

- おばけのバーバパパが生まれて、人助けをするお話です。人助けの場面で、バーバパパが姿を変化させて活躍するところがとても魅力的だと思います。人とバーバパパのふれあいなどがお子さんとの共通の話題となるよう、読み聞かせをしてみてください。

【「てのひらのあいさつ」ジェイソン・プラット文 クリス・シーバン絵（あすなろ書房 2020.7）を読んで】

- 子育てが大変でも、子供たちへの愛が変わることはないという主人公の父の想いや親子の葛藤の部分が伝わるよう、読み聞かせをしてみてください。

【「おめでとうのももんちゃん」（【とよた かずひこ作・絵童心社 2020.11）を読んで】

- この本は擬音が多いために子供と一緒に楽しみながら読み聞かせを行うことができます。読み聞かせ後も、散歩の際に絵本に出てきた擬音を使いながら歩くことで子供との楽しい時間を過ごすことができます。

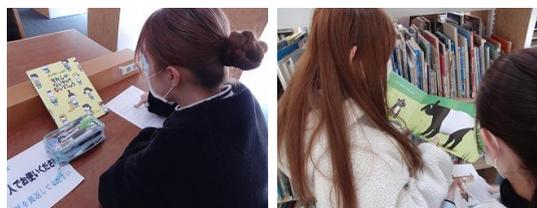
【「ふたりはいつもはらぺこのらねこ」とあひるのアヒージョ」うえのよし作 田中チズコ絵 教育画劇 2020.9）を読んで】

- ・ 食いしん坊の主人公がお店屋さんになって、自分で料理をして自分で食べてしまうことが2回出てくるので、子供が「また〜？」と反応してくれるとても面白い絵本です。「のらねこバル」と「あひるのアヒーショ」の口調が違うので、工夫して読むと面白いです。

【「せかいのひとびと」ピーター・スピーアー絵・文（評論社 1982.1）を読んで】

- ・ 肌や目の色、体格など世界の人々と違うこともあれば、同じ日本人でもそれぞれ違った顔や体になっていることを個性だと感じられるように伝えていく・・・自分と違ったその人なりの魅力に気づき、周りの友達を大切にできるよう伝えていくことができる本だと思います。

「読み聞かせラーニングコモンズイベント」を実施することでポスターを作り参加者を募っていたところ、短大の坪井真先生の目にとまり授業の中に本企画を位置付けていただいたものです。当日は1限・3限・4限の3コマで延べ約120名の学生さんが授業を受けていました。このように先生方のご協力をいただき図書館が活用されることは、本館職員にとってとても嬉しいことです。今後も、図書館の授業活用が進むよう、先生方と連携していきたいと考えています。



読み聞かせには
こんなよいことが

- ・聞く力・集中力を育てる
- ・想像力を育てる
- ・読み手と聞き手のコミュニケーション



開館カレンダー

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

2023年1月・2月

	午前9:00～午後6:00
	午前9:00～午後5:00
	午前9:00～午後1:30
	休館日

一般利用者の入館が可能です。来館時事前予約は不要ですが、カウンターにて「一般利用者記入用紙」等の記入をお願いします。発熱等の体調不良がある方は、入館をご遠慮願います。感染防止対策については、館内での指示に従ってください。

ご理解・ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染状況により、開館予定が変更になる場合があります。最新の状況については、図書館HPをご確認ください。

~~~~~ 発行・編集 ~~~~~  
 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

Tel 028-670-3651・3652

Fax 028-670-3619

E-mail tosyo@sakushin-u.ac.jp

URL <http://www.sakushin-u.ac.jp/library/>

